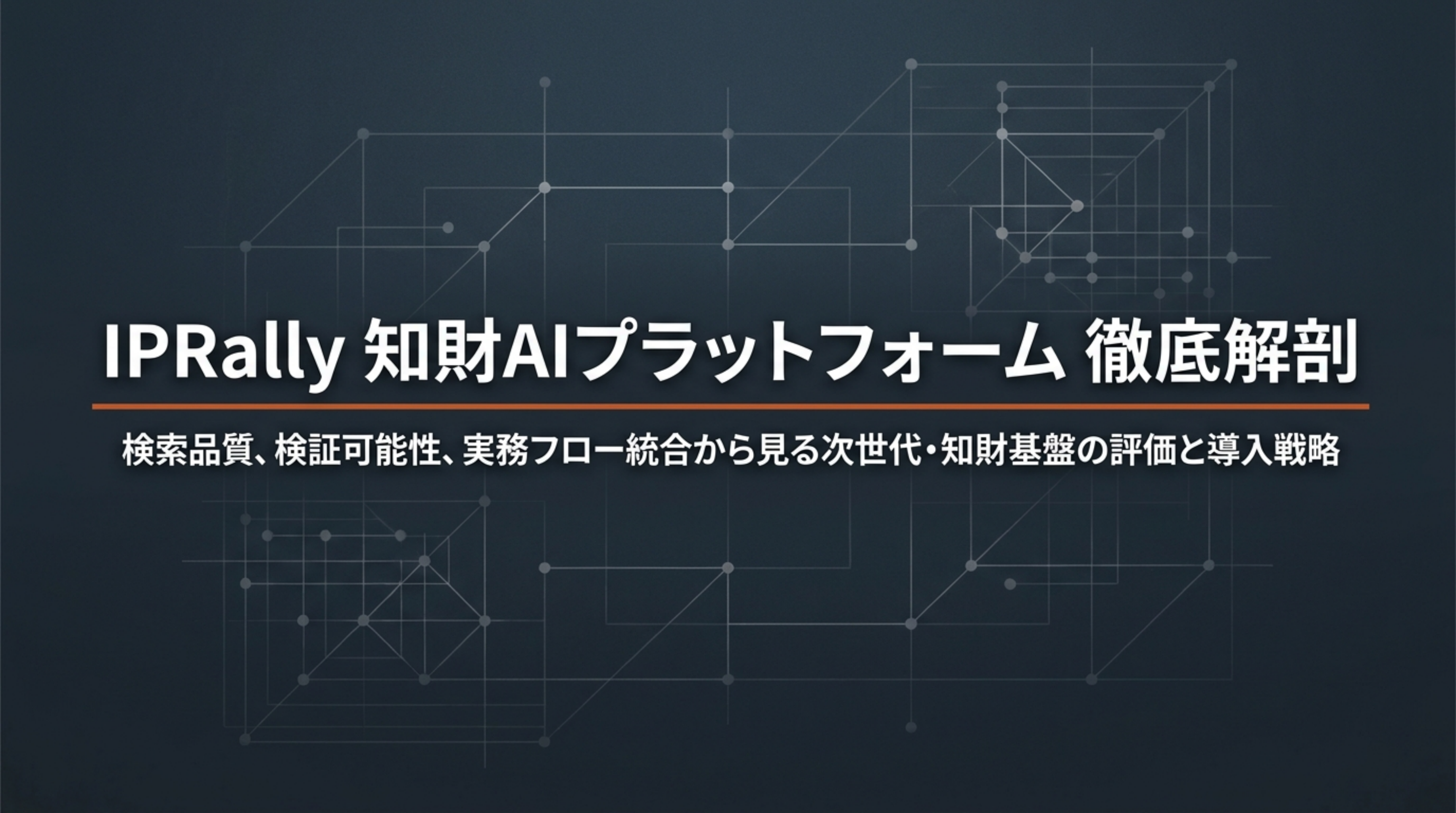
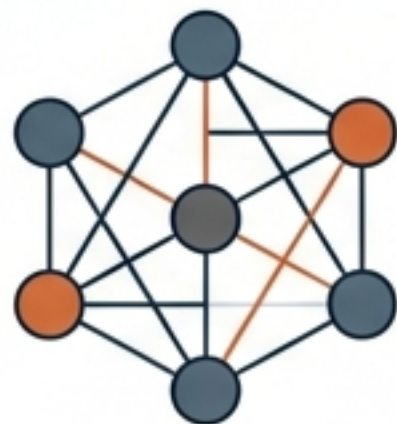


The background of the slide features a complex, abstract geometric pattern. It consists of a grid of thin, light-gray lines that intersect to form various shapes, including squares and triangles. Small, light-gray dots are placed at many of the intersection points, creating a network-like structure. The overall effect is a technical and modern aesthetic, typical of a presentation related to technology or data.

IPRally 知財AIプラットフォーム 徹底解剖

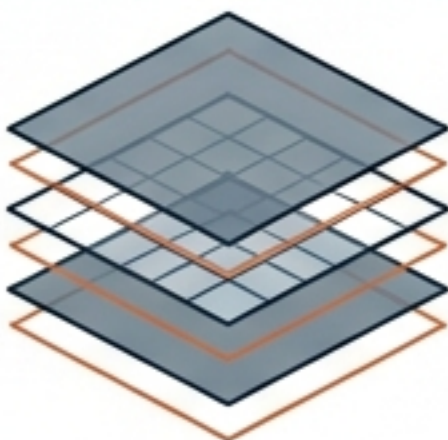
検索品質、検証可能性、実務フロー統合から見る次世代・知財基盤の評価と導入戦略

単なる生成AIではない、特許実務の全工程を最適化するAIネイティブ基盤



Graph AI - 精度と検索

審査官の引用データ（数百万件）を学習した独自のGraph Neural Network。キーワード一致なく技術の「概念的類似」を捕捉し、ノイズを劇的に削減。



LLM Overlay - 検証と説明

Google Gemini Flash 2.0/2.5を要約・翻訳・質問応答の「補助レイヤー」として局所利用。特許特化の検索結果の上に重ねると、ハルシネーションを防止。



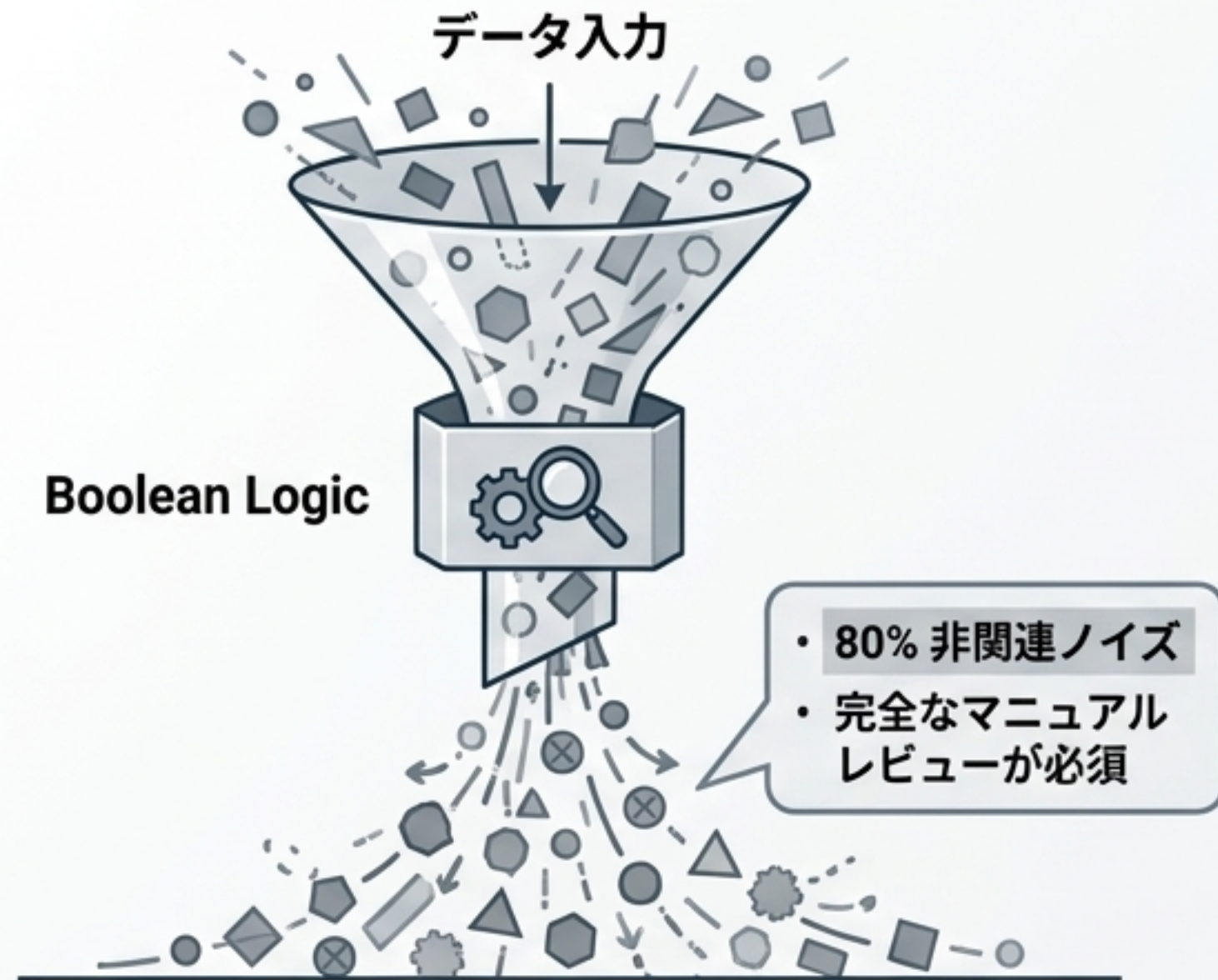
Actionable Outputs - 実務統合

発明開示から先行技術探索、特徴単位の新規性レポート生成までを分分～時間単位に圧縮。専門職の「レビューと意思決定」に特化。

Manual Searching → Strategic Reviewing

汎用LLMへの丸投げからの脱却：特許特化の「Graph AI」と「生成AI」の分業

従来型: キーワード検索の限界

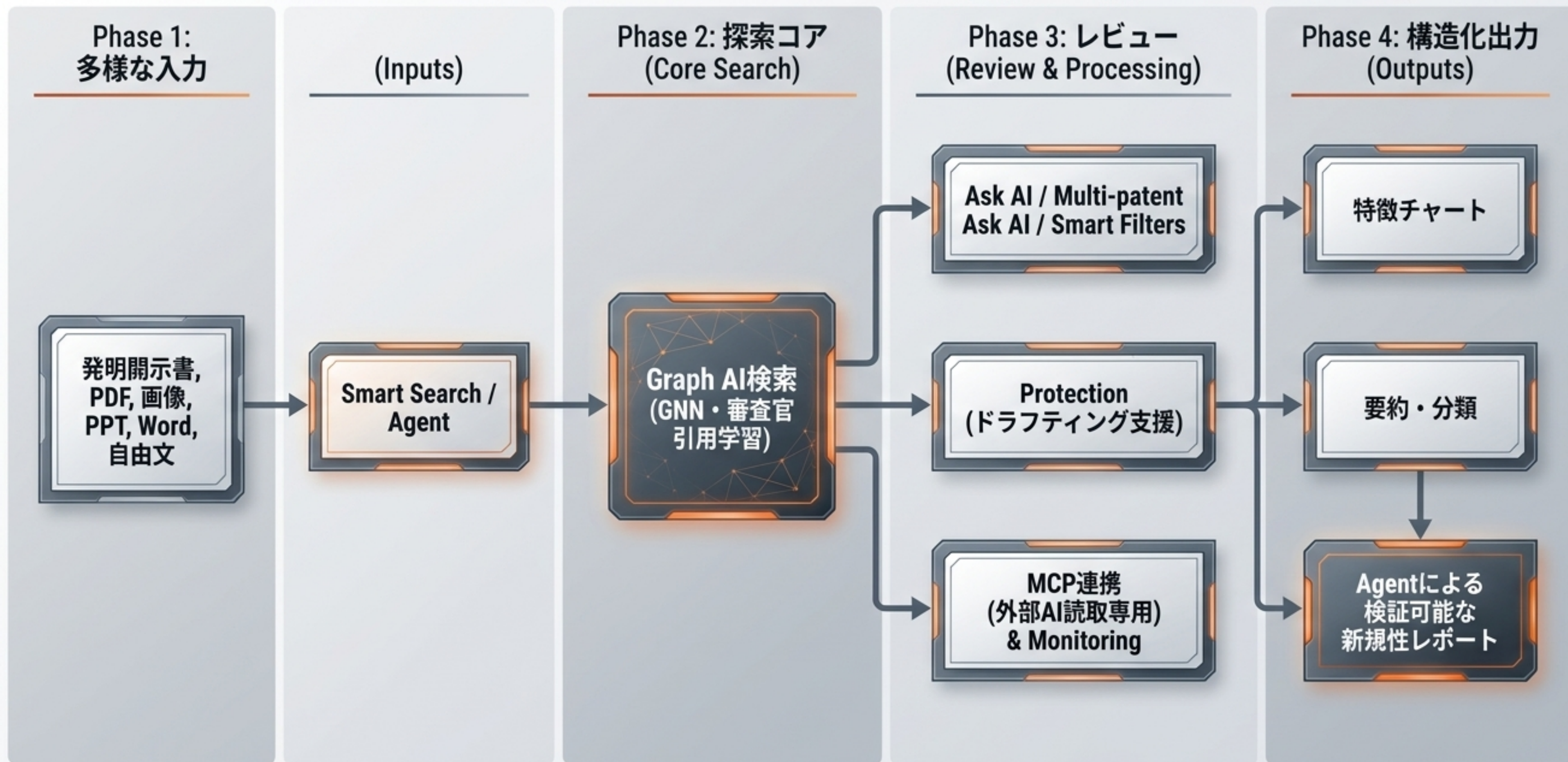


IPRally Architecture

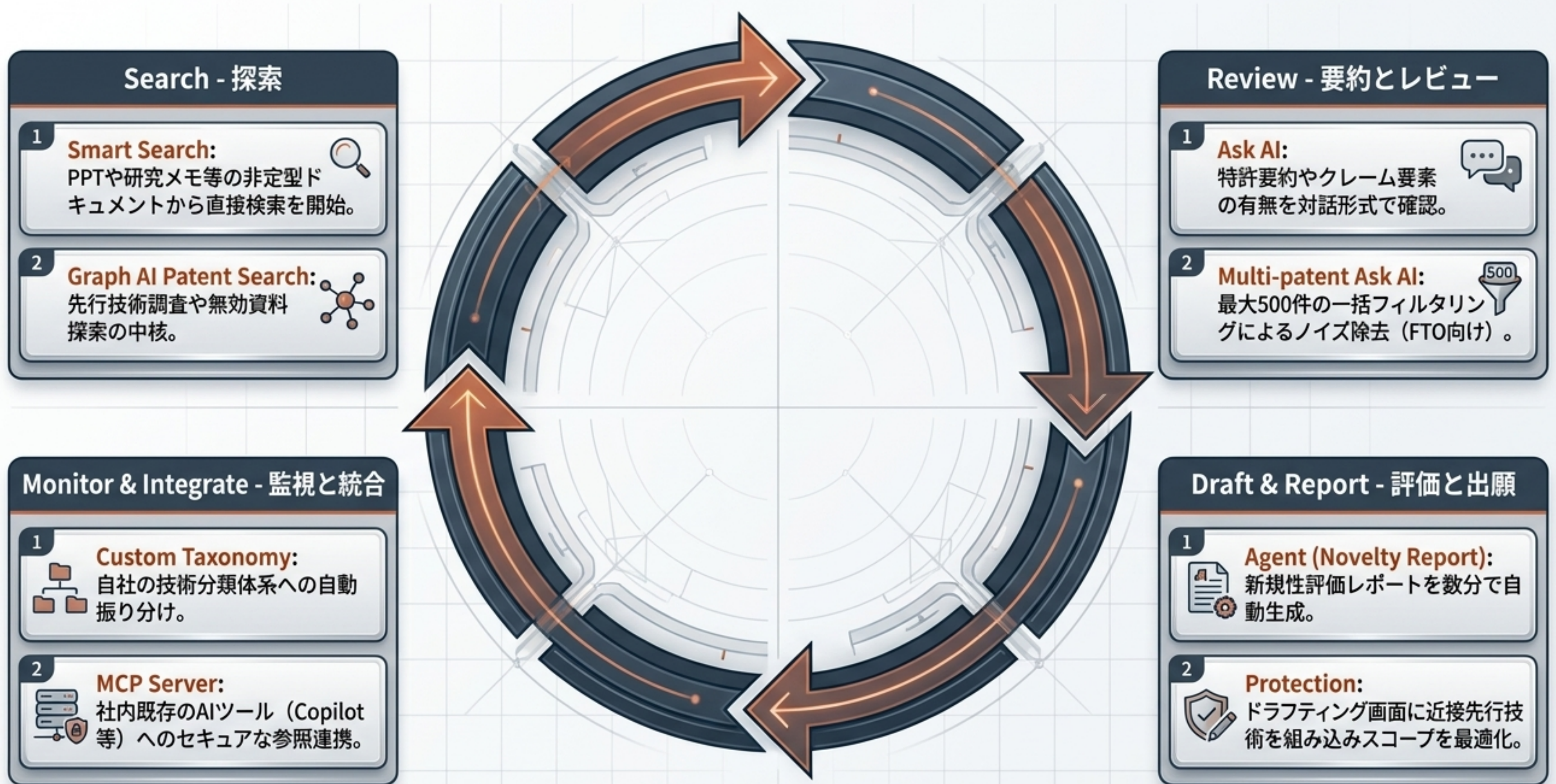


価値の源泉は「LLMを特許業務に載せたこと」ではなく、
「特許に特化した検索モデルの上にLLMを重ねていること」にある。

発明開示から新規性レポート生成までの実務プロセスをシームレスに統合



検索から出願支援まで、知財ワークフローの6つの層を網羅



世界1億2,000万件超の特許コーパスと最新のクラウド基盤



Infrastructure & Data Stats

プロバイダ: IFI Claimsベースの
厳格なデータ。

日本データ: 1983年以降の日本
特許・実用新案を網羅。非英語
文献の機械翻訳を標準実装。

インフラ基盤: Google Kubernetes
Engine (GKE), Rayを活用し、週
20万件の新規レコードを処理。



【実務上の留意点】 法的ステータスや厳密な権利解釈を要する最終判断時は、必ず原庁公報 (J-PlatPatやEPO) の公式ソースによる検証を推奨。

検索品質の向上と作業時間の大幅な削減を両立する実証データ

 RPX - 特許リスク管理

30% → 42%

重要先行技術の採用率向上。1件あたりの探索時間を平均1.5時間短縮。IPRでの高い実績。

 Ypsomed - 医療機器 / FTO

-50% Time

FTO調査時間の半減。従来Boolean検索の莫大なノイズ（約80%）を削減し、上位200件に重要ヒットを集中。

 Melexis - 半導体

75% Reduction

特許性調査時間を劇的短縮（1.5日 → 3時間）。発見した先行技術の30-50%が後のEPO審査で再出現する高精度。

 Metsä Group - R&D / 素材

Weeks → Minutes

外注依存からの脱却。直感的なUIにより、非知財人材（R&D部門）の自律的な初期スクリーニングが実現。

IPRallyの導入効果が最大化する組織の条件と適合要件

導入適性が高いユースケース



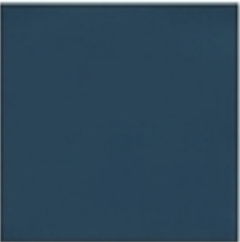
高頻度の調査：月間/四半期で新規性調査、FTO、無効資料探索のボリュームが大きい。



Boolean検索の限界：既存手法ではノイズが多く、異分野文献や翻訳文献の取りこぼしリスクを抱えている。



R&Dへの自営化移行：知財部門のボトルネックを解消し、R&D部門に初期スクリーニングを委譲したい。



外注費の削減：調査レポートの外注日数とコストを固定SaaS型に転換したい。

導入効果が限定的・不適合な要件



完全なオンプレミス環境（閉域網）での運用が絶対条件の組織。

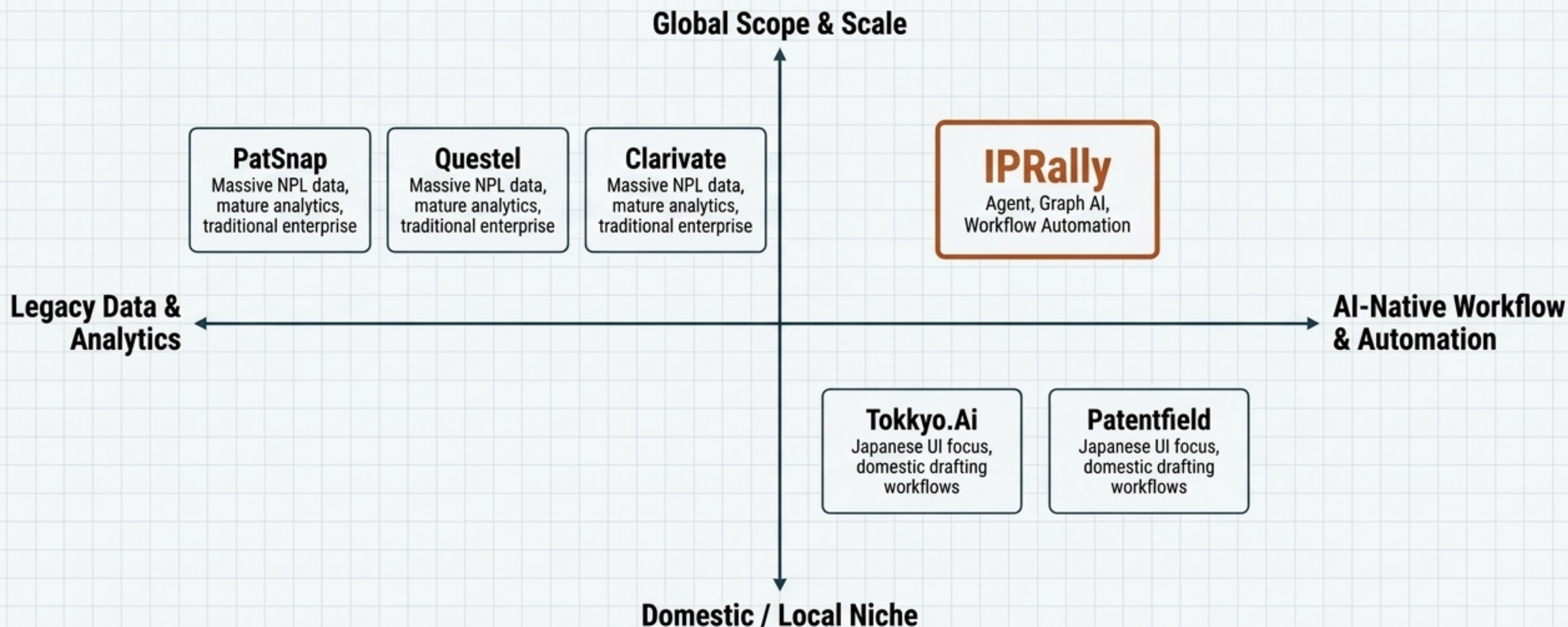


年間の検索件数が極めて少なく、既存の専任体制で処理が完全に完結している場合。



非特許文献(NPL)、化学構造式、生物配列などの広範な統合分析を主目的とする場合。

グローバル市場における「AIネイティブ・ワークフロー」としての独自ポジショニング



IPRallyは既存の巨大データ分析基盤（左上）とは競合せず、「先行技術調査の自動化と検証」に極端に特化した新領域（右上）を切り拓いている。

主要な知財プラットフォームの能力比較と選定の分岐点

機能・要件	IPRally	PatSnap	Questel/Clarivate	国内系 (Patentfield / Tokkyo.Ai)
先行技術の検索品質 (Graph AI)	● 最高 (審査官引用学習)	高	高	中
結果の検証・説明可能性	● 最高 (特徴チャート生成)	中	中	中
NPL・周辺データ規模	中 (特許特化)	最高 (150M+ NPL)	最高	中
日本語UI・ローカルサポート	弱 (英語中心)	高	高	最高
価格透明性	弱 (非公開/SaaSモデル)	中 (一部公開)	弱	最高 (ID数万円規模)

「日本語での使いやすさ」や「価格の明快さ」よりも、「先行技術の発見精度」と「AIの根拠確認」を最優先する場合、IPRallyが最有力候補となる。

機密性の高い発明開示の入力を前提としたエンタープライズ保護

Compliance & Access

ISO 27001 および Cyber Essentials 認証取得。GDPR準拠（DPA公開済み）。
保存時および転送時の暗号化。IPRally従業員による会話内容の閲覧不可。

Infrastructure & LLM Privacy

Ask AIの処理はIPRallyと同一クラウド環境内で実行。Google Geminiに対してはは必要最小限のコンテキストのみを送信し、Google側の「ゼロデータ保持 (Zero Retention)」契約を確保。

Data Ownership

ユーザーコンテンツの所有権は完全に顧客に帰属。
入力データがIPRallyや第三者のAIモデル学習に利用されることは一切ない（Zero-training policy）。

AI特有の法的リスクに対する技術的軽減策と実務上の責任分界

AIハルシネーションと不透明性

出願判断において、AIの誤りを人間が見逃す致命的リスク。



ブラックボックス回避設計

Agentによる「Feature-level reasoning（特徴単位での理由付け）」と「Citations（明確な引用箇所提示）」。結論ではなく根拠を返す設計。



法的ステータスの遅延

権利存続や失効の判断ミス（致命的リスク）。



公式ソースへの回帰徹底

プラットフォームはあくまで「探索ツール」。最終的な侵害リスクやFTO判断は、J-PlatPatやEPO等の公式簿冊への回帰を社内運用として徹底。



アップロード権限と越境移転

共同研究資料や他社資料の無断アップロード。



厳格なデータ保護枠組み

ToSおよびDPAにて適法な権限確保を要求。EU/EEA外への移転に関するSCC等の保護枠組みを提供。



単価課金からの脱却：外注費を置き換えるB2B SaaSモデル

Licensing Tiers Breakdown

Enterprise

大規模ポートフォリオ管理・カスタム統合向け。要見積り。

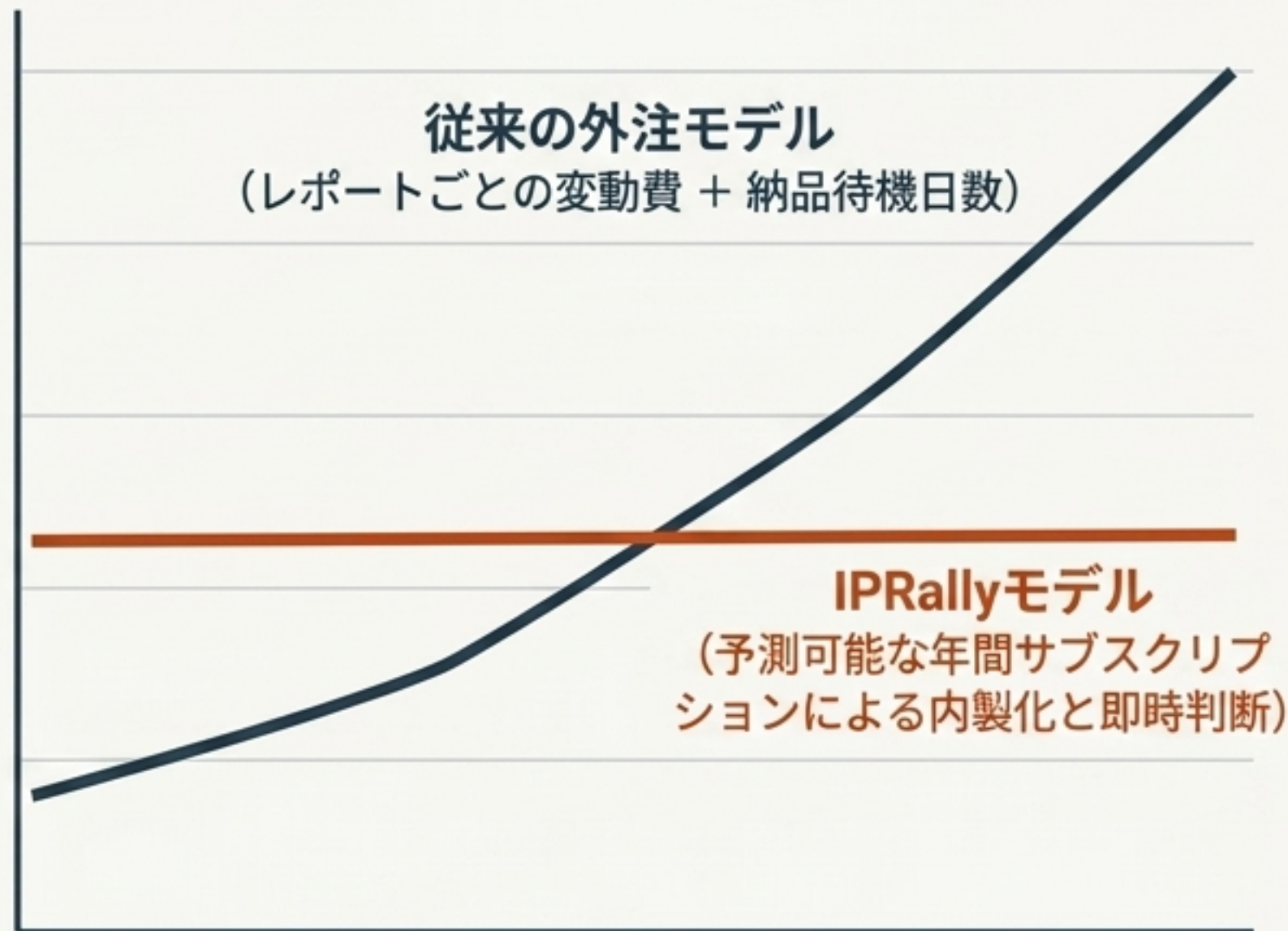
Team Plan

部門導入向け。2ユーザー～無制限。
SSO連携、対面研修、専任CSM、R&D向けライセンス、カスタム分類機能、MCP連携等を追加。

Individual Plan

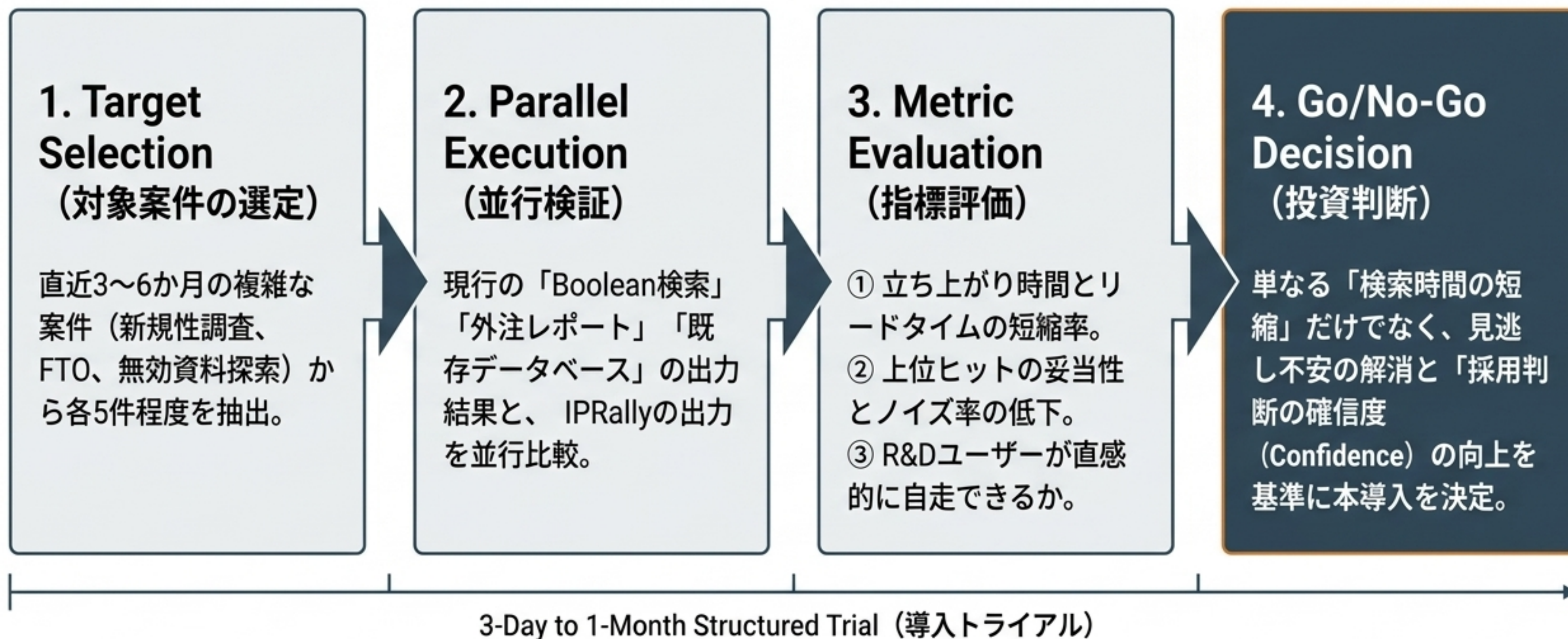
個人弁理士・サーチャー向け。1ユーザー。
Graph AI Search, 基本AI支援完備。

Strategic Cost Shift



※ ミッドマーケット～エンタープライズ寄りのプロフェッショナル商材。

導入可否の確信度を最大化するPoC（概念実証）の推奨ステップ



説明責任を担保しながら「意思決定までの時間」を圧縮する次世代基盤

IPRallyは「検索をAIで単に速くするツール」ではありません。
特許専門職がプロフェッショナルとしての説明責任 (Accountability)
を保ったまま、探索・レビュー・判断の初動を抜本的に圧縮する
「ワークフローの再設計基盤」です。



導入を強く推奨

新規性調査・FTOの量が多く、既存
検索のノイズや外注リードタイムが
事業のボトルネックになっている組織。
(Teamプランによる本格PoCを推奨)

条件付き推奨

R&D部門への検索自営化やレ
ビュー時間の短縮を課題とする
中規模IPチーム。

比較検討を推奨

広範なNPL統合分析や、絶対的
なオンプレミス環境、日本語UI
を最優先する組織。